

# 古希を機に句集出版

## 西田町・山本さん 380句収録



句集を手にする山本候充さん

して俳句に触れ、1987年ごろから詠み始めた。短大などで非常勤講師を務める傍ら、月に10句程度を詠んでいる。「短いからこそ、言葉から想像させるのが俳句の魅力」と笑う。

古希の節目として出版することを決め、題字や挿絵なども山本さんが描いた。新年の願いなどを一椀に込めた「一年を両手で包む雑煮かな」、山々が目の前に迫る春の風景を描いた「新緑に手が届くよう山寄せる」、自由律の「陽だまりに体がほつとしている」などの作品がある。

全143頁で200部制作

甲府市西田町のマーケティングコンサルタント山本候充

さん(72)は、句集「風うた」

を自費出版した。日常生活で感じたことや訪れた国内外の

景色などを詠んだ380句を収録している。

山本さんは、県内の製菓会社で広告宣伝を担当していた際にキヤッチコピーの参考と

し、知人らに贈った。山本さんは「季語など形式にとらわれない作品も多い。俳句に親近感を持ってもらえればうれしい」と話している。